

アンケート結果の分析（平成 14 年と平成 18 年の比較）

① 先生の IT 度

・パソコンを使用しない先生の割合（10%→10%）、ワープロソフトによる簡単な文書の作成（94%→94%）。PC による簡単な成績の打ち込み（86%→86%）は変化なし。

PC を使わなくても生活できる、使う意義が見られない等 PC を利用されない先生方が存在する。PC による簡単な成績の打ち込みもしない先生が 10%強存在する。現段階では教員ひとりに 1 台の P C が確保されていないが、ひとり 1 台が確保されれば 0%に近づくであろう。

・インターネット利用（55%→63%）、E メール利用（41%→45%）、HP 公開（6%→9%）、日常生活における PC が不可欠（62%→74%）は確実に増加している。

情報機器の使用は確実に増加しているし、日常生活でも不可欠と考える先生が 3/4 に増えている。が、HP 等を開設し情報公開をなさる先生の割合はまだまだ低い。

② 教材の IT 活用度

・手書きプリント使用（PC の必要性を感じない）（7%→7%）で変わらず。

ベテランの先生で、すでに教材や資料がまとまっており、PC 用に書き換えの必要性が少ないと考えられているようだ。

・配布プリントの PC 編集（79%→85%）、教科書フロッピーなどによる問題作成（44%→53%）、PC による情報収集と未加工のままの教材作成（57%→67%）、著作権に配慮した教材作成（52%→61%）、プレゼンソフトによる授業（11%→18%）、

教材作成や考査問題作成に PC を利用されている先生は確実に増加している。しかし、生徒自身に PC を操作させての授業実践はまだまだ割合が低い。

・日常的な PC 利用の授業（6%→7%）

教室環境（P C ・プロジェクター・スクリーンの常設）がまだまだ進まず日常的に PC を利用しての授業展開は困難なようだ。環境が整った特別教室を確保できている先生が進めているようだ。大阪府では今年度より各校に 3 セット普通教室で利用できるプロジェクターセットが配置されたので、今後活用の仕方の研究が必要だ。それとともに L A N 教室が教科情報で使用されているため、別途複数の特別教室への環境整備が必要である。

③ 生徒への IT 利用促進度

・ワープロ利用のレポート作成（17%→17%）は変わらず。

生徒に PC を使わせるには、生徒の家庭における PC 環境や学校の PC 環境がまだまだ整っておらず、使えない生徒が数多く存在しているようだ。ワープロ操作等の基本操作等は、教科情報の授業に期待するところである。

・インターネットを利用した調べ学習（28%→36%）、E メールを利用したレポート提出（6%

→10%)、パワーポイントソフトを利用したプレゼンテーション (7%→9%)、生徒発表手段としての HP 作成 (3%→5%)、

インターネットを利用した調べ学習などの比較的スキルのやさしい I C T 活用は普及の兆しが見られるが、高度な利用になればなるほど利用率が下がっており、教員の指導スキルや生徒のスキルに大きな差が存在しているようだ。又、I C T 環境がまだまだ不十分で生徒たちに使わせるのが難しいようだ。が、一部の先生の先行努力が感じられる。ノウハウの共有化を望むところである。

④ 職場の IT 活用支援体制

・自由に使える PC は私物である (78%→79%)、自室に自由に使える PC がある (77%→76%) でほぼ変わらず。

PC が自由に使えなければ、使わない教員が出てくるのは当たり前だ。公費でひとり一台の P C を全教員へ配置することが急務と思われる。情報保護の観点からも、個人の PC を学校での業務に使用することは問題が多いと考える。

・自由に使える PC は学校の所有物である (80%→76%)、PC を使用する際の環境が整っていない (51%→44%)、PC 操作について気軽に尋ねられる人が近くにいる (87%→83%)

世間的に情報機器やスキルが向上しているのに、この項目の割合が低下していることは問題であり、ICT 教育を進める上での課題でもある。学校における機器の更新が進まず、旧式の陳腐化した機器を使用しているため、個人の最新の機器やスキルで作成された教材や指導案での授業展開が困難であるようだ。又、教員の個人的なスキルが全体的に向上しているのに、その教員を指導する立場の教員が少ない（育っていない）のではないだろうか。

注）質問文のとらえ方に幅があり、自由に使えるという意味が曖昧なままである。

学校のパソコンで十分なのか、自分の P C を持ち込まなければ仕事が出来ないのかという意味で尋ねたのか質問の意図を整理する必要があった。

⑤ 参考 社会科研究会ホームページに何を期待しますか。

- ・ 研究会の行事案内 33%→19%
- ・ 研究会の行事報告 15%→13%
- ・ 会員の掲示板 9%→5%
- ・ メール機能 5%→3%
- ・ 教材の登録・共有化 46%→45%
- ・ 役に立つリンク集 41%→37%

HP の充実（利用頻度の高まり）により期待度を下げている。

掲示板・メール機能は必要としない。

教材の登録・共有化、役に立つリンク集の割合が高いのは、HP から教材等を手に入れたいという期待度が高い。

全体としては、討論や議論の場としての期待度はきわめて低いと判断する。

常に新しい教材・教案を提供する必要性があるのではないだろうか。

100人の1歩なので数字的には飛躍的な変化は見られないが、確実にHPのアクセスを初めICTを活用した授業は確実に増えている。